

# ランピースキン病 (LSD) 生ワクチン

## 【有効性】

- ・ アフリカ、欧州、アジア等の発生国でワクチン接種が実施され、清浄化や発生数の減少を確認
- ・ 国際機関 (WOAH、EFSA) もワクチン接種を撲滅のための最も有用なツールとして推奨

### 韓国の事例

2023年10月に初発事例を確認。発生後にワクチン接種を開始。

同年11月10日に全頭ワクチン接種を完了し、以後1年ごとに全頭接種継続。

	発生期間	発生件数
2023年	10月19日～11月20日	(1か月で) 107件
2024年	8月12日～12月9日	(4か月で) 23件

発生件数が大幅に減少

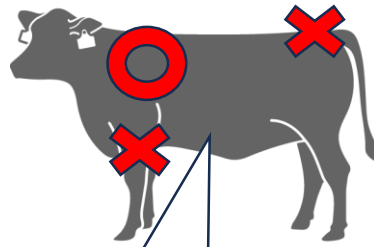
約9ヶ月間発生確認されず

出典：韓国農林畜産食品部プレスリリース (2024年12月9日現在)

## 【安全性】

### ・ 副反応：

一時的な乳量減少や注射部位の腫れ、皮膚の結節 (「ニースリング反応」) 等が見られるが、通常は治療しなくても消失する。初回接種時に見られることが多い。



頸部の接種を推奨！  
(接種部位が腫脹しやすくなるため、尾根部や肘部等への接種は推奨されない)



国内で確認された発症牛の丘疹  
(臨床症状だけでは副反応との識別は困難)

ワクチン接種後、同様の症状がみられた場合には家保にご連絡ください！

・ 海外では、LSDワクチンが15年以上にわたり約3,000万ドーズ以上使用され、ワクチンによる重篤な症状等を示した事例はほとんどなかったことが報告されている。

## 現在国内で接種可能なワクチン

ボビリス・ランピーバックス・イー

製品名：Bovilis Lumpyvax-E (MSD Animal Health社製) ※

(弱毒生ワクチン)

※現時点では薬機法上の承認は取得していない

- ・ 農林水産省「ランピースキン病対策検討会」における専門家による議論の結果、
  - 韓国等、複数の国で使用実績があること
  - 一定の安全性及び有効性が確認されていること等から、本ワクチンの輸入、備蓄を決定。

・ 効能効果：牛におけるランピースキン病の発症予防  
ワクチン接種後10日～3週間で免疫効果が発現

・ 食品安全委員会により食品健康影響評価済み

“Bovilis Lumpyvax-Eを接種した牛に由来する食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度”



## 【国内で接種した事例】

	接種後の経過等
ケース1	初発事例確認5日後にワクチン接種。その後、発症牛なし
ケース2	初発事例確認日にワクチン接種。その後、発症牛なし
ケース3	初発事例確認3日後にワクチン接種。ワクチン接種5日後に新たな発生を確認。その後は発症牛なし。(接種前に感染、もしくは接種後免疫効果発現前に感染の可能性)

※本ワクチンについてのお問い合わせ先：農林水産省 消費・安全局 畜水産安全管理課、動物衛生課